

# 図書館だより

秋田大学附属図書館  
年3回刊行(4月・10月・1月)

附属図書館ホームページ

<http://www.lib.akita-u.ac.jp>

医学部分館ホームページ

<http://libra.med.akita-u.ac.jp/>



菅江真澄の道を通って 8

「久田、正道尻を経て森山てう磯山なり。此のあたり面白ところながら、霰うちふりいと寒く、弓弦前といふささやかなる流れを渡りて色かへぬ松神の村も降り埋れ、黒崎の名も白崎といはまほしく雪と浪の中に見えたり」(雪の道奥、奥の出羽路より)。真澄の一行は雪に悩まされ山添を秋田に向った。

秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

## 目次

時空の旅人・菅江真澄	渡辺 英夫	2	新人紹介・研修報告	5
シリーズ・心に残る一冊(21)	神谷 修	3	医学部分館コーナー	6
三浦文庫紹介	鶴 光代	4	図書館カレンダー	7
トピックス(Shakespeare Collection公開)		4	掲示板・編集後記・奥付	8

## 時空の旅人・菅江真澄

渡辺英夫



幕末の動乱に向かって世の中が大きくなうねりを見せ始めた18世紀の後半、道奥（みちのく）・秋田を旅した人に菅江真澄（すがえますみ）がいる。彼は1754年(宝暦4)、現在の愛知県・三河国に生まれ、本名を白井英二（しらいえいじ）といった。賀茂真淵の門人植田義方（よしかた）に学んで国学を修め、1783年(天明3)、信濃路を経て出羽・秋田領に入った。以後1829年(文政12)、角館に没するまで40余年に及ぶ旅宿の境涯を送った。その足跡は東北各地から遠く蝦夷地・北海道にまで及んでいる。

彼が旅に出た年の7月、浅間山は大爆発し、信州や関東地方は甚大な被害を蒙った。すると、これに誘発されたかのように東北地方は冷害から凶作、飢饉へと突き進んだ。世に言う天明の大飢饉である。食料不安から都市部には打毀し、農村部には百姓一揆が続発し、社会不安が一気に高まった。この不穏な状況の中、飢えて病み路傍に倒れた人々の屍を横目に彼は旅を続けている。

真澄が修めた国学とは、日本に仏教や儒学といった外来の思想が入ってくる以前の古典を研究する学問で、その素養を基に彼は彩色のスケッチを交えた擬古文で旅の情景を書き綴った。数十冊に及ぶその紀行文を「菅江真澄遊覧記」という。道奥に生きる人々への偏見のない彼の眼差しと、そこに記された人々の生活や風俗に民俗学が研究の光を当てている。しかし、食の生産に当たる者たちが飢えて苦しんでいたとき、親類も知人もいない北の大地で、乞食にも等しい一介の旅人が罹病もせずにごうやうやう生をつないだのであろうか。村里に一夜の宿を得たとしても、二日三日と連泊を重ねる者には藩の厳しい監視の目が光った。藩境の関者や番所をどう通り抜けたのだろう。旅の費用はどう工面したのか。故郷の恩師に宛てた手

紙が残されているが、飛脚の便も整っていない当時、その書はどのように届けられたのだろう。疑問は尽きない。歴史学として解明すべき課題は多い。

真澄の生きた時代には「東北地方」という地域の概念も、ましてやそこへの蔑視や偏見もなかった。それらはすべて近代に創られた産物である。彼は三河国に生まれ、参勤交代で上り下りする諸藩の侍や伊勢・上方の商人たちから西国方面の長崎、そして中国・朝鮮・琉球、果ては南蛮方面の情報にまで接する機会があったのではないか。かつて、八代将軍徳川吉宗の求めに応じ長崎からはるばる象が歩いてきたことも聞き知っていたかもしれない。彼にとって道奥こそが残された異境の地であった。その道奥各地を巡遊し、さらにその奥、海を隔てた北方に蝦夷地・アイヌの世界が広がっていることを知り、その暮らしぶりを実見したとき、もはや奥羽の大地は道の奥、最果てではなかった。こうして彼は北東北の空間を相対化した。そのとき同時に、この北国の風土に日本古来の姿を重ね見ることはなかっただろうか。思想史上の課題も大きい。

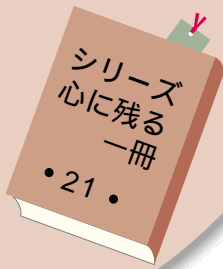
(わたなべ ひでお

教育文化学部文化環境講座 助教授)

なお「菅江真澄遊覧記」は080-To82東洋文庫に収録されています。

ビデオ「菅江真澄の旅」も新規購入しました。





# 『町工場・スーパーなものづくり』

小関智弘 著

筑摩書房 1998年 1100円



神谷 修

著者の小関氏は、機械加工職人として50年の経験と同時に、作家としては芥川賞の候補に上がるほどの実力があり、日頃物言わぬ職人の声を代弁する。氏は、淡々とこれまでの経験と見聞した事例を示す。

東京都墨田区にある、わずか従業員6名の町工場が開発した「深絞り技術」が無ければ携帯電話の電池は出来なかった。今では年商7億円を稼ぐという。また1995年、名門フェラーリ社が選んだ世界最高の精度を持つ工作機械は、大メーカーのものではなく岡山県里庄町の安田工業製であった。

工作機械の精度を決める平面の仕上げは手作業で行う。室温が1度変化しても鉄は変形するので、熟練工はその日の天候によって加工の手加減を変えるという。

コンピュータを搭載したNC自動機械やロボットが生まれたが職人に取って代わるものではない。NC機は確かにプログラム通りにものを作るが、工夫して新しいものを作ることは無い。職人の工夫や創造性が加わって初めて優れたものづくりができる。

町工場では、NC機という優れた道具を使いこなすハイテク職人が誕生した。職人の技は益々光る。ハイテクは、町工場にある。考えてみれば、町工場としての秋田大学から世界に先駆けた優れた技術や教育が生まれてもおかしくないと思う。

(かみや おさむ)

工学資源学部機械工学科 教授)

この図書は本館2F開架 509.21-Ko83 にあります。

## 本学教官等著作寄贈図書

(平成14年9月～平成14年10月受入れ)

本学教官が著し、寄贈されたものです。ありがとうございます。

井門 正美 著	「問題解決力を培うロールプレイング・シミュレーション Simtown」	N S K 出版	1998
	「社会科における役割体験学習論の構想」	N S K 出版	2002
佐々木和貴 共著	「演劇都市はパトウの匣を開けるか」	ありな書房	2002
肥田 登 共著	「湧水とくらし」	無明舎出版	2001
日高 水穂 共著	「秋田大学ことばの調査 第1集」	秋田大学教育文化学部	1999
	「秋田大学ことばの調査 第2集」	秋田大学教育文化学部	2001
幸野稔・佐々木雅子 共著	「オーラル・コミュニケーションの理論と実践」	三修社	2002
石川三佐男 共著	「楚地出土資料と中国古代文化」	汲古書院	2002
	「秋田漢詩尋歴」	(非売品)	2002
村上 東 共著	「記憶のポリティックス」	南雲堂フェイクス	2001
山田 正行 共著	「『人間の尊厳と共生』の教育研究」	(非売品)	2002
渡部 育子 共著	「環境歴史学の視座」	岩田書院	2002

図書館では本学教官の著作物(単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文)を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折りには御寄贈くださいますようお願いいたします。

## 三浦文庫紹介

鶴 光 代

教育文化学部の3年生として教育心理学を学んでいた三浦芳代子さんが、平成13年4月20日に自転車で青信号を渡っていて交通事故に遭い、信じられないことですが天国に旅立ってしまいました。

本学図書館の開架に設けられた三浦文庫は、芳代子さんが青春をおもいきり生きた証として、ご両親が本学に寄付して下さったものです。

理不尽に命を奪われた人々へのレクイエムである「生命(いのち)のメッセージ展」が、平成14年11月29日から3日間、秋田県社会福祉会館で開催されました。それは、お母さんの芳代子さんが深い悲しみのなかで、全国の同じ思いをしている人々と協力して開かれたものでした。同級生はボランティアとして手伝い、先輩、後輩は会場を訪れ芳代子さんを偲びました。私は、三浦文庫の報告をしました。

三浦文庫は、学生から要望のあった心理学関係の本を中心にした文庫です。「臨床心理学大系」(1~20巻)といった学術書から、「スヌーピーたちのいい人間関係学」といった楽しいものまでたくさん入っていますのでおおいに利用して下さい。

(つる みつよ 教育文化学部教育心理学講座 教授)



本館開架図書館140に三浦文庫コーナーを設けて並べてあります

リストは図書館ホームページの下記URLでご覧ください。

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/miura.htm>

## トピックス

### “Shakespeare Collection” 公開

平成14年10月30日(水)夜、図書館で秋田大学平成14年度公開講座「生涯学習社会と大学開放」第3回「図書館と大学開放」が開催されました。

(講師：三浦傳--みうらまもる--図書館長)

当日は図書館公開の一環として、図書館本館1Fホールにて当館所蔵の特別コレクション “Shakespeare Collection” が一般公開展示され三浦亮学長や佐々木和貴教育文化学部助教授(解説執筆)

はじめ公開講座参加の方々や教職員、学生さんが多数見学に訪れました。



## 新人紹介

茶屋 容子



昨年の十月に、秋田大学附属図書館に新規採用になりました茶屋と申します。出身は北海道なのですが、初めて訪れた初秋の秋田大学の温かく落ち着いた雰囲気、ぜひともこちらの大学に勤務してみたいと思い採用面接を受けました。今は、それが叶って毎日楽しく勤務しています。

配属先が利用サービス係ということもあり、利用者の方と接する機会が多いのですが、カウンターなどに寄せられるお問い合わせの内容は様々です。蔵書の所在案内もままならず、利用者の方々

には大変ご迷惑をおかけしていることと思いますし、さらにそういった業務の経験不足に加えて、自分の知識・教養不足を痛感している毎日です。

利用者の皆さんへの適確で迅速な対応を目指して努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

(ちゃや ようこ 利用サービス係)

## 晴れた日は御虫払いふるふる

澁谷 順子

去る6月26日(水)と27日(木)の2日間、文化財虫害研究所の主催で行われた虫菌害保存対策研修会に参加しました。日頃、図書に着いた埃や黴、虫喰いが気になっていましたが、積極的に対策を講じたり、保存について学習することもなかったので、研修内容はすべて興味深いことでした。

中でも特に感慨深かったのは、どの講師の方々も触れた「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」に関する事です。これはご存知のようにフロンなどにより成層圏が破壊され、有害な紫外線が地表にまで到達し、人類に悪影響を及ぼすと認識されたことにより、オゾン層を破壊する物質を国際的に規制するために定められたものです。日本も1988年に議定書を批准し、「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」が定められました。その後、特定フロンや特定ハロンが全廃されると共に、臭化メチルについても規制対象になり、農産物等の検疫や出荷前の処理等の一部を除き、2005年(平成17年)1月には全廃する事が決定されました。

この臭化メチルこそが実は、現在、多くの博物

館・美術館そして図書館等において行われている、燻蒸処理による殺虫殺黴に一番多く使用されている燻蒸剤の一種だそうです。ここで地球環境保護が、防虫防黴と関連している事をはじめて認識しました。

この化学性薬剤を用いた殺虫処理方法はせいぜい40年くらいの歴史なので、今後は臭化メチルに替わる薬剤を期待するよりも、伝統的総合的有害物管理の考え方が、より今日的でありましょう。すなわち日本でも古来より行われてきた知恵・「虫払い」「陰干し」等です。「目通し・風通し」と言った言葉は単に害虫を逃避させるだけでなく、モノの状態を目視する確認作業が伴う、いわばより人間的な行為であると言えます。保管場所の清潔を心がけ、「地球にやさしく」、虫にも人間にもやさしく互いに共存していく方向です。

カラリと晴れ上がった日、図書館を囲み、大勢で一人一冊ずつ本を持ち、虫ふるうの図など、想像しただけで壮大で愉快ではありませんか。

(しぶや じゅんこ 図書情報係長)

## 平成14年度目録システム地域講習会(図書コース)を受講して

鈴木 尋美

去る7月標記講習会を東北大学附属図書館で受講してきました。講習会の進行はテキストに沿った解説の後、検索課題および登録課題集を解いていく実習が中心でした。問題の数やパターンが多岐にわたっていたため時間内に全てを解答していくのは困難でしたが演習課題の解答例の解説は丁寧でとても分かりやすいものでした。

講師の方は、目録作業を行うにあたって書誌の検索は検索条件を二度三度変えて大切に行うよう

何度も繰り返しおっしゃっていました。書誌の重複登録を避けることが質のよい総合目録データベースの構築につながっていくことを強調していました。

今回の講習会は目録規則の再確認のうえでも充実したものでした。一般利用者への目録所在情報提供に少しでも役立つよう日常業務に取り組んでいきたいと思えます。

(すずき ひろみ 図書情報係)

# 医学部分館コーナー

## ビデオテープの配置場所を変えました

今までビデオテープはカウンター内に置いていて、利用者の方には見えにくい状態にありました。

この度、カウンター前のキャビネットに新しく受け入れた分から約300巻を移動し、直接見ることができるようになりました。所蔵のビデオテープはカウンター備え付けの「AV資料リスト」で調

べることができます。OPACでは最近受け入れた数年分しか検索できませんが、全資料が検索できるようにデータ入力を開始しました。

館内（視聴覚室）でしか利用できません（貸出しはしていません）が、この機会に大いにご利用下さい。

## 「医中誌Webの使い方」を発行しました

医学中央雑誌Web版の基本的な使用方法を解説したリーフレット「医中誌Webの使い方」を発行しました。分館にて配布しております。

またホームページからもダウンロードできるようにしておりますので、ご活用下さい。

なお、より詳しい検索方法を知りたい方は、分館情報検索コーナーに「医中誌Web（Ver.2）検索マニュアル」を備え付けておりますので、ご覧になって下さい。

## 「医学部分館 NEWSLETTER」を創刊しました

利用者の方への情報発信誌として「NEWSLETTER」を創刊しました。

第1号は「電子ジャーナルへの簡単なアクセス方法」です。

分館にて配布しております。またホームページ

上からダウンロードもできます。

今後載せてほしい記事、ご感想などありましたら、カウンターまたはメールボックスまでお寄せ下さい。

## 購入希望資料（学生用）のリクエストがWeb上でもできるようになりました

学生から図書館に備え付けてほしい資料の要望を受け付けておりますが、今までは用紙に記入して投書箱に入れてもらっていました。

この度、ホームページ上にリクエストを受け付ける項目を設けましたので、ご活用下さい。併せて選定結果もご覧になれます。

なお、注意事項などをよくお読みになってから、お申し込み下さい。

リクエストフォーム

資料種別（必須）：図書 視聴覚資料  
書名・タイトル（必須）：

著者・編者：

出版社：

ISBN：（わかれば）

お名前（必須）：

所属（必須）：大学院 医学部 医療短大  
連絡先（必須・連絡が確実につくメールアドレスか電話）：

備考：

必須事項のご記入のないものは受け付けられませんので、ご確認ください。

# 図書館カレンダー (2003年1月~2003年4月)

休館

長期休業期間 8:45~17:00

平日 8:45~20:00

土曜・日曜・祝日 9:00~17:00

## 本館

## 分館

1						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

2						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

4						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

4						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

# ・ 掲 示 板 ・

卒業生および修了生のみなさんへ

借用中の図書は忘れずに返却してください。返却期限は**2月28日(金)**です。

春休み期間中の貸出について (図書館HPの開館カレンダーも参照ください)

## 【本館】

春休み長期貸出は次の通りです。

期 間：2月9日(日)から

返却期限 4月12日(土)

冊 数：10冊

対 象：院生及び学部学生

## 【分館】

春休み長期貸出は次の通りです。

冊数は通常と同じ2冊です。

医 学 部：2月19日(水)から

返却期限 4月3日(木)

医療短大：2月17日(月)から

返却期限 4月9日(水)

## センター試験及び入学試験のためによる図書館閉館日【本館】

センター試験：1月18日(土)～19日(日)[1月17日(金)は17:00閉館]

[特別利用も停止：1月17日(金)17:00～20日(月)8:45]

前期入試：2月25日(火)～26日(水)

[特別利用も停止：2月24日(月)17:00～27日(木)8:45]

後期入試：3月12日(水)

[特別利用も停止：3月11日(火)17:00～13日(木)8:45]

## できごと

1. 見学や学習に訪れた学校の皆さんです。  
2002. 10. 9 八郎潟中学(約15名) 南外中学(約30名)  
10.22 横手城南高校(約100名) / 11.5 秋田市立南中学(約15名)
2. 情報リテラシー授業開講  
(2002年後期 ネットワーク時代の情報リテラシーB) 2002. 10.2 ~ 11.13
3. 公開講座でShakespeare Collection 公開(P. 4 参照) 2002年10月30日
4. 学外文献が図書館HPから申し込めるようになりました。2002年12月より

## 編集後記

寒い冬です。積雪を初めて経験する方もいるのでは。図書館は暖かくして、皆さんの利用をお待ちしております。

願いがひとつ。図書館資料を借りたり返したりするとき、そのまま持ち歩く方がいらっしゃいます。

この季節、資料が濡れることも多いので(紙類は水分が苦手です)カバンや袋等に入れていただけますか。

資料にも暖かいおもいやりをお願いします。



## 図書館だより 第55号

2003年1月10日発行

編集 秋田大学附属図書館出版物編集委員会

発行 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052

FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252